

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第1回高松市ものづくり基本条例検討委員会
開催日時	平成26年5月1日(木)15時00分～
開催場所	高松市役所7階72会議室
議 題	(1) 高松市伝統的ものづくり振興条例について (2) 平成26年度高松市伝統的ものづくり振興に関する主要事業について (3) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	5 人 池田委員、香川委員、泉川委員、本多委員、谷委員
傍聴者	1 人 (定員 5 人)
担当課及び連絡先	産業振興課創造産業係 839-2411

審議経過及び審議結果

(委員長)

開会のことば

(事務局)

～事務局からスケジュールの説明～

今年度は合計6回の審議会を予定している。第3回までは伝統的ものづくり振興条例の基本施策に基づく新規事業について、月1回のペースで審議会を開催していきたい。第4回では平成27年度の予算に計上する事業について、第5回はそれまでに実施した事業等の中間報告及び評価、第6回では今年度のとりまとめと新年度への取り組みを報告する。

事務局より議題説明

(1) 高松市伝統的ものづくり振興条例について (制定背景及び内容)

(2) 平成26年度高松市伝統的ものづくり振興に関する主要事業について

(3) その他

(事務局)

今年度取組事業の中にある伝統的ものづくり人材育成県外派遣事業について参加候補者をあげているが、その人選、現地で訪ねるべき場所、学びのテーマなどについての意見はないか。また、資料にある高松市伝統的ものづくり振興シンポジウムの内容、基調講演やパネラーの案についても何か意見はないか。

審議経過及び審議結果

(委員)

4泊5日の金沢への人材派遣の参加者は盆栽、漆器、庵治石など異業種の人々であるが、団体行動か、それとも個人で行動するのか。

(事務局)

事務局で細かいスケジュールは決めず、参加者から自主的に学びたいことなどをアイデアとして出してもらい、金沢で学んできてもらえればと思っている。そのため団体行動と個人行動の両方の時間を取りたい。

(委員)

ものづくり振興という名前の条例のもと、作るだけでなく販売にも力を入れたいと思っている。以前輪島市に行った際、輪島塗職人の住居兼販売も行っている工房を訪ねた。そこは長屋事業という取組の一環だが、そこでは学校給食で使われている食器洗浄機対応の輪島塗の漆器が展示されており、衝撃を受けた。そのような場所を訪ねるとよいと思う。

(会長)

輪島市を含め、金沢市からも足を延ばして、それぞれの分野の参加者が関心のあるところを訪ねてほしい。

(事務局)

産業振興課課長、係長が今年の1月に金沢を訪れた。金沢市にはクラフト政策推進課があり、行政の中にも伝統工芸を推進する仕組みがある。そこで行われていた、各ものづくりの団体がショップを運営し、その運営団体に対し市が助成を行うという方法は高松市にとっても大変参考になるものである。今回のような派遣事業は今後もぜひ継続していきたいと考えており、委員からの意見をもとに、今後も本事業を発展させていきたいと考えている。

(委員)

派遣事業について、市からの事業費は40万円とあるが、市の補助としては実質交通費と宿泊費のみか。

(事務局)

今回はあくまで実費のみの助成を考えている。

(委員)

参加者5人に対し現予算では、派遣先での学びのチャンスを活かす上で費用的に難しいのでは。

(事務局)

今回は初回であることもあり、今後様子を見ながら、ものづくりという枠内で臨機応変に対応、検討していけたらと思う。

(委員)

せっかくこのような派遣事業を続けていくからには、終了後に参加者が派遣先で得たものをシンポジウム等での発表によりフィードバックしてもらえたらよいのでは。

(委員)

出発前に参加者に計画書を提出してもらおうというのはどうか。特に団体行動ではない個人行動日に訪ねたいところなどの計画書があればよいのでは。

(事務局)

出発前に参加者が全員集まっての打ち合わせを予定しているので、計画書についてもその時に組み組めたらと考えている。

(委員)

業界の人が現場でどのような販売経路を開拓しているのか、またどのような販売手法を持っているのかということを知ることが必要である。

(委員)

参加者には、視察のみならず具体的な販路や金沢市の民間も含めたものづくりのネットワークとの今後に役立つつながりを作ってきてほしいと思う。今回の事業を職人や担当部局との具体的な人と人の交流ができるきっかけにしてほしい。

(委員)

現地での活動スケジュールは参加者が作成し、その訪問先でのアポイントメントを市にとってほしい。

(委員)

参加者が作成した派遣先での計画書を次回以降の審議会で共有してほしい。

(会長)

次のテーマ、シンポジウムについてだが、シンポジウムの開催や内容について何か意見はないか。

(委員)

候補者に上がっている、「能作」の岡さんをぜひ呼んでいただきたい。「能作」は近年大幅に売り上げが伸びている会社であり、販売の手法などについてぜひ話を聞いてみたい。

(委員)

シンポジウムにありがちだが、時間内にそれぞれが活発に意見を交換する段階に到達するのは難しいのでは。

(事務局)

30～40分間の基調講演は金沢市の1名の講師を予定しており、そのあと高松市で現在ものづくりの分野において活躍している人々によるディスカッション、その後でまた金沢市の講師から意見を聞くことができればと思う。

(委員)

色々な方の意見を聞くうというのも大事だが、講演をただ聞いて終わるという従来のシンポジウムにありがちな状況を避けるべく工夫をするべきである。会場のキャパシティはどのくらいか。

(事務局)

ブースなどを設置することを考えても、150名くらいを想定している。

近年、市では条例の制定等の関係でシンポジウムを多く行っているが、参加者がなかなか集まらないのが実情である。そのため、今回は関係者を多く呼べるようなシンポジウムにしたい。

(委員)

ものづくりの現場において、ものを「売る」ということは最も知りたいことである。そのためシンポジウムのタイトルにも、「売り方」という言葉を入れたほうがものづくり業界の人も参加しやすくなるのではないか。パネラーが壇上にいると質問もしづらいため、もっとディスカッションできるような形・雰囲気づくりがよいのではないか。販売方法やホームページについてなど売り方のアドバイスが聞きたい。

(委員)

実際に売れるものについて聞きたければ、消費者の話を開かなければならない。誰か目玉になるような人を一人呼ぶことで人集めができないか。以前県立ミュージアムでサントリ美術展が開催された時のシンポジウムでは、一般的にも有名な著名人を呼び、満席になったようだ。

(委員)

ターゲットを業界の人に絞るのか、それとも一般消費者か、または若い世代なのか、予算も考えながら従来の方法とは違うような新しい取組にしたい。

(事務局)

広報をはじめとして色々な周知を考えている。工芸高校等にも知らせていきたいので、次回審議会で案内先などを報告できればと思う。

(委員)

市民ホール展示とは何か。

(事務局)

市役所1階、正面玄関を入った広場に今回の取り組みを紹介するものを展示して来庁者に紹介するものである。

(委員)

住民票を取りに来るなど、用事がある来庁する人に向けてフロア展示してもあまり効果がないのでは。

(会長)

実施まで時間があるため、広報についても検討していきたい。

(委員)

継続事業の8から10についても委員の意見を今後反映してもらいたい。

(委員)

今回の派遣事業と、中小企業指導団体等育成補助金はどちらもものづくりの推進、支援とあるが、人材育成という観点からそれらの今後の整合性について聞きたい。

(事務局)

中小企業指導団体等育成補助金については、これまでも各団体からの要望に応じてその事業に見合う補助金を長年にわたり交付してきたものである。そして新規事業として今回の伝統的ものづくり人材育成県外派遣事業があるが、既存の育成補助金を再整理して、伝統的ものづくり産業の振興のためにより有効な補助金を交付できるようにしたい。

本市は牟礼、庵治、国分寺など伝統産業に関わる部分の合併を経ているが、その前後で補助金等について見直しがまだできていない。今回を機に全体的な整理をするためにも委員

の意見を聞いていきたい。

(会長)

補助金の交付がルーチンワーク化しており、補助金を受ける側にも補助金ありきの姿勢には改善すべき点が多くある。例えば漆器組合については若手の育成が遅れており、新しいアイデア等が生まれない状況がある。販売等についても世代による感覚差があるのは確かだが、活性化に向けて委員の意見を聞きながら改善していきたい。

以前県警の警察官の表彰の際、彫漆の手法を使ったバッジを作り、非常に好評で全国大会に参加した際も注目を集めた。その取組みは今も続いており、これからもそのような機会があればよいのではないか。

(委員)

今回の派遣事業を機に四国新聞と金沢の地元紙がタッグを組んで今回の取組をPRできればと思う。

(会長)

金沢市と高松市を比べると、市の文化に対するお金の使い方が全く異なっている。今回を機に高松市でもその部分についての見直しを検討していてもよいのでは。